

科目名	言葉の指導法				担当	長田 真紀		
形態	演習	単位数	1	開講時期	2年前期	実務経験		
必修	幼児：必修 保育士：必修				ナンバリング	Y3106	DPとの関連	3
授業概要	領域「言葉」のねらいと内容を理解しつつ、乳幼児期の言葉の発達について理解する。保育内容「言葉」の指導のあり方を理解し、子どもが自分の気持ちを言葉で表現することを育むにあたり、保育者として言葉の表現技術「表現力、対話力」を身につけるため、絵本・童話・民話・紙芝居などの児童文化財を通じ具体的な知識と技術を実践的に学んでいく。							
到達目標 学習成果	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」のねらいと内容を理解する。乳幼児期の言葉の発達課程をよく理解し、子どもが豊かな言葉を育むために、保育者として総合的な援助・指導が行えるような知識と実践的な指導法を身につけることを目標とする。							
授業計画	回	内容						
	1	ガイダンス	保育における領域「言葉」について					
	2	乳幼児期の言葉①	乳幼児期の発達と言葉の獲得の関連性について					
	3	乳幼児期の言葉②	乳幼児期のこどもの生活の中の言葉の表現について					
	4	他領域との関係	領域「言葉」と他の領域との関係について					
	5	生活体験と言葉	日常生活の中で育つ言葉と遊びの関係性について					
	6	言葉の相互伝達	言葉による考えや感覚を伝え合うことの大切さについて					
	7	言葉のおもしろさ	言葉のリズム・抑揚・擬音・擬態語による言葉のおもしろさについて					
	8	児童文化材と言葉①	伝承遊びと言葉の関連性について					
	9	児童文化材と言葉②	絵本、童話、民話などの朗読表現について					
	10	児童文化と言葉の発達①	ごっこ遊びの楽しさと語りかけの重要性について					
	11	児童文化と言葉の発達②	言葉あそびの実践と言葉の獲得の関係性について					
	12	言葉の指導法の実践①	想像を巡らせる読み聞かせの教材研究と立案について					
	13	言葉の指導法の実践②	児童文化財を用いた具体的な指導案の作成及び実践					
	14	言葉の指導法の実践③	指導案をふまえた実践発表とグループ討議					
	15	こどもとの言葉の関わり	言葉の発達や獲得を視点においた模擬保育と指導方法の省察					
評価基準	領域「言葉」のもつ保育内容を十分理解し、保育者としての専門的知識と実践的技術・方法を身につけることができたか、また、発表までの過程や成果のレポートを評価基準とする。							
評価方法	絵本等の読み聞かせの実践 40% 課題 40% 授業態度 20%							
フィードバック方法	課題は採点后、返却。講評も付す							
アクティブラーニング	絵本、紙芝居等のグループワーク、ディスカッションおよび発表							
教科書	『言葉とふれあい、言葉で育つ』大越和孝ほか／東洋館出版 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針原本』（平成29年6月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）							
参考書	『幼稚園と小学校の教育（改訂版）』乙訓稔編／東信堂 他、随時資料を配布する。							
履修条件	保育における言葉の基礎知識を深め、子どもたちが楽しみながら言葉を獲得するための教材研究と保育者としての指導方法を身につけようとする意識を持って履修すること。							
授業外学習	・事前学習：授業時に提示する資料・文献を事前に必ず読み、理解しておくとともに、読み聞かせ等の準備をよくした上で、授業に臨むこと（各回30分） ・事後学習：授業で扱われた内容を整理し、課題の作成を行う（各回30分）							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する。2階17番研究室							